

観点Ⅳ 体験活動中、活動後の取組

Ⅳ- 1 体験活動中の留意点

よくある課題

教育効果を高めるには、
どのような指導が
望ましいのだろうか。

→ポイント①



児童生徒が、どんなことに気付
き、学んだのかをまとめる指導
方法を知りたい。

→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 指導方法の工夫 (→p.105)

⇒児童生徒への指導にあたって、生活習慣や安全等に関わる部分はしっかり指導する一方で、活動中の指示等はなるべく減らす等、児童生徒の自主性や社会性を育むため、場面に応じた指導を実施。

ポイント② 振り返り機会の提供 (→p.108)

⇒農山漁村体験活動を通じて得られた「気付き」について、整理や文章化する機会を、児童生徒に付与することで、「気付き」を「学び」へと昇華。

ポイント① 指導方法の工夫

児童生徒への指導方法は、場面によって変えることが望ましいでしょう。生活体験に関する指導や現地で目にしたものの知識付与には「伝える」ことが適しています。その一方で、農山漁村体験活動中の指導は、児童生徒に「気付かせる」ことを重要視し、初めて経験する体験活動から得られる学びの深化を図ることが望ましいと考えられます。

指導者の役割と場面

指導者の役割		指導等の場面
伝える	教える (インストラクター)	- 火のつけ方を教える - 刃物や道具の使い方を教える - 生活の仕方を教える 等
	解説する (インタープリター)	- 土地の歴史や文化について説明する - 動植物について説明する - 一次産業について説明する 等
気付かせる	促す (ファシリテーター)	- 児童生徒が自ら気付きを得るよう促す - 班活動や話し合いがうまく進むように支援する 等
	よく聴く (カウンセラー)	- 元気のない児童生徒に声をかける - ケンカしてしまった理由を聞く 等

出典) 学校で自然体験活動をすすめるために－自然体験活動指導者養成講習会テキスト－ (国立青少年教育振興機構) に基づき作成
<http://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/60/File/09honbu0408.pdf>

集団での生活体験では、全員が同じタイミングで起床し、三食を摂り、就寝することになるため、生活リズムを身に付けるきっかけとなり得ます。また、周囲のことを考えて、準備や片付け、整理整頓する必要があるため、ルールやマナーといった社会性や協調性が育まれることが期待されます。

生活習慣や安全等に関わる指導内容（例）

指 導	内 容（例）
1. 規律面	・ 集団生活のルールやマナーを自分たちで決定、実践する。
	・ 自分勝手な行動を慎み、生活や班での行動を大切にする。
	・ 5分前行動を徹底する等、生活スケジュールや時間を守る。
2. 安全面	・ 火気や道具等の取り扱いに気をつける。
	・ 危険かどうかを自ら判断することの大切さに気付く。
	・ 自然の中で生息する危険な生物に対する理解を深める。
3. 健康管理面	・ 手洗いやうがい等を行い、自らの健康を管理する意識をつける。
	・ 食事や排便、早寝早起き等、生活リズムを身に付ける。
	・ 体調チェックの方法を学び、体調が悪い時には連絡する癖をつける。
4. その他	・ 使用した道具等を元の場所に戻す等、片付ける癖をつける。
	・ 道具等、次に使う人の気持ちを考えて行動する。
	・ 清掃活動を行い、ゴミの処理方法について理解する。

出典）学校で自然体験活動をすすめるために－自然体験活動指導者養成講習会テキスト－（国立青少年教育振興機構）に基づき作成
<http://www.niye.go.jp/kanri/upload/editor/60/File/09honbu0405.pdf>

児童生徒が自ら考えた農山漁村体験活動中のルールと併せて、生活指導を行うことで、社会のあらゆる場面に通用する価値観（秩序を乱さないこと、個々を思いやること、等）を醸成することが望めます。

農山漁村体験活動を通じて、児童生徒に多くの「気づき」を獲得させることは非常に重要です。体験活動中には、指示を必要最小限として児童生徒の主体的な活動を促すと共に、発問を展開することで、考える力を育てましょう。

体験活動中の一場面



⇒目的・ねらいに沿った「発問」を、体験活動に取り入れることで、児童生徒の自主性や学習意欲を引き出すことが期待できます。

⇒体験活動中の様子をよく観察し、児童生徒の心が動いた瞬間の行動や言動を映像や写真、メモ等で記録しておきましょう。

民泊受入家庭での一場面



⇒初めて会う大人に褒められることで、小さな成功体験が積み上がるため、児童生徒は「自信」をつけ、「自立性」が醸成されることが期待できます。また、体験活動後、家庭に帰ってからも実践することが期待できます。

ポイント② 振り返り機会の提供

各活動や1日が終わるタイミングなどで、体験活動を振り返り、児童生徒それぞれが気付いたことや感じたことを文章や絵等で整理・記入する時間を設けましょう。宿泊班で、記入した内容を発表しあうことで、学びをより深める分かち合いを行っても良いかもしれません。

振り返りシート（例）

＜毎日の振り返り＞

__ 月 __ 日（__）

名前（ ）

1日の振り返りをしよう！

	振り返り点	評価	理由（できたこと、反省、等）
1	今日1日を楽しめた		
2	時間を守り、素早く行動できた		
3	友達と協力できた		
4	道具を大切にし、ちゃんと片付けた		
5	身の回りの整理整頓ができた		
6	健康、安全を心掛けた		
7	自分から挨拶をした		
8	決めたルール・マナーを守った		

〇〇活動について振り返ろう！

気付いたこと、学んだこと	
〇〇活動の感想	

1日の振り返り日記（楽しかったこと、反省点、教員に伝えたいこと、等）

新学習指導要領の「特別活動」においても、体験活動を通して気付いたことを振り返り、それをまとめたり、相互に発表し合ったりする等の工夫を講じることを推奨する記載がされています。

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）

第6章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学校行事〕

3 内容の取扱い

- （3）（略）また、実施に当たっては、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの事後の活動を充実すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- （2）（略）第2に示す内容相互及び各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図り、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）

第5章 特別活動

第2 各活動・学校行事の目標及び内容

〔学校行事〕

3 内容の取扱い

- （1）（略）また、実施に当たっては、自然体験や社会体験などの体験活動を充実するとともに、体験活動を通して気付いたことなどを振り返り、まとめたり、発表し合ったりするなどの事後の活動を充実すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- （2）（略）第2に示す内容相互及び各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図り、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。

観点Ⅳ 体験活動中、活動後の取組

Ⅳ-2 活動後の取組

よくある課題

活動で得た学びを定着させたい。

→ポイント①



活動の効果を把握したい。

→ポイント②

実施にあたってのポイント

ポイント① 事後学習の実施 (→p.111)

⇒事後学習として、農山漁村体験活動を振り返り、新聞や劇等で自ら表現することで、気づき、また学びを反復し、児童生徒の成長をサポート。

ポイント② 体験活動の効果測定 (→p.114)

⇒農山漁村体験活動の教育効果を定量的に把握することで、活動の意義・必要性に対する教員・保護者の理解を獲得し、また次年度以降の継続方針に活用。

ポイント① 事後学習の実施

事後学習の方法には、新聞の作成や劇の発表等があります。児童生徒が活動中に経験したことを振り返り、自ら表現する機会を提供します。

事後学習の一例（武蔵野市立第四中学校）

「活動新聞」の作成（事後学習の進め方）について

宿泊班ごとに「民泊体験レポート」壁新聞を作成します。しおりに記入した内容を中心に、体験してきたこと、そこから感じたことや学んだことなどをまとめよう。

作成上の注意点

1. 新聞の用紙は、模造紙を縦書きで使いましょう。
2. 下書き用のプリント（別紙配布）に沿って、記事とする内容をまとめましょう。
班のメンバーで分担して作業が進められるよう、レイアウトの段階から、どの記事を書けるか分担すると良いです。
スケッチや図等、手書きの資料を入れよう。写真を貼ってもよい。
3. 下書き完成後、黒ペンで清書する。時間に余裕があれば、見栄えが良くなる工夫をしよう。
4. 10月27日（土）の四中祭ですべてのテント農家班の作品を掲示。
事前学習の新聞のよいところも参考にしながら、見やすく丁寧に仕上げる。
5. 最終締め切りは10月25（木）。計画的に進める。

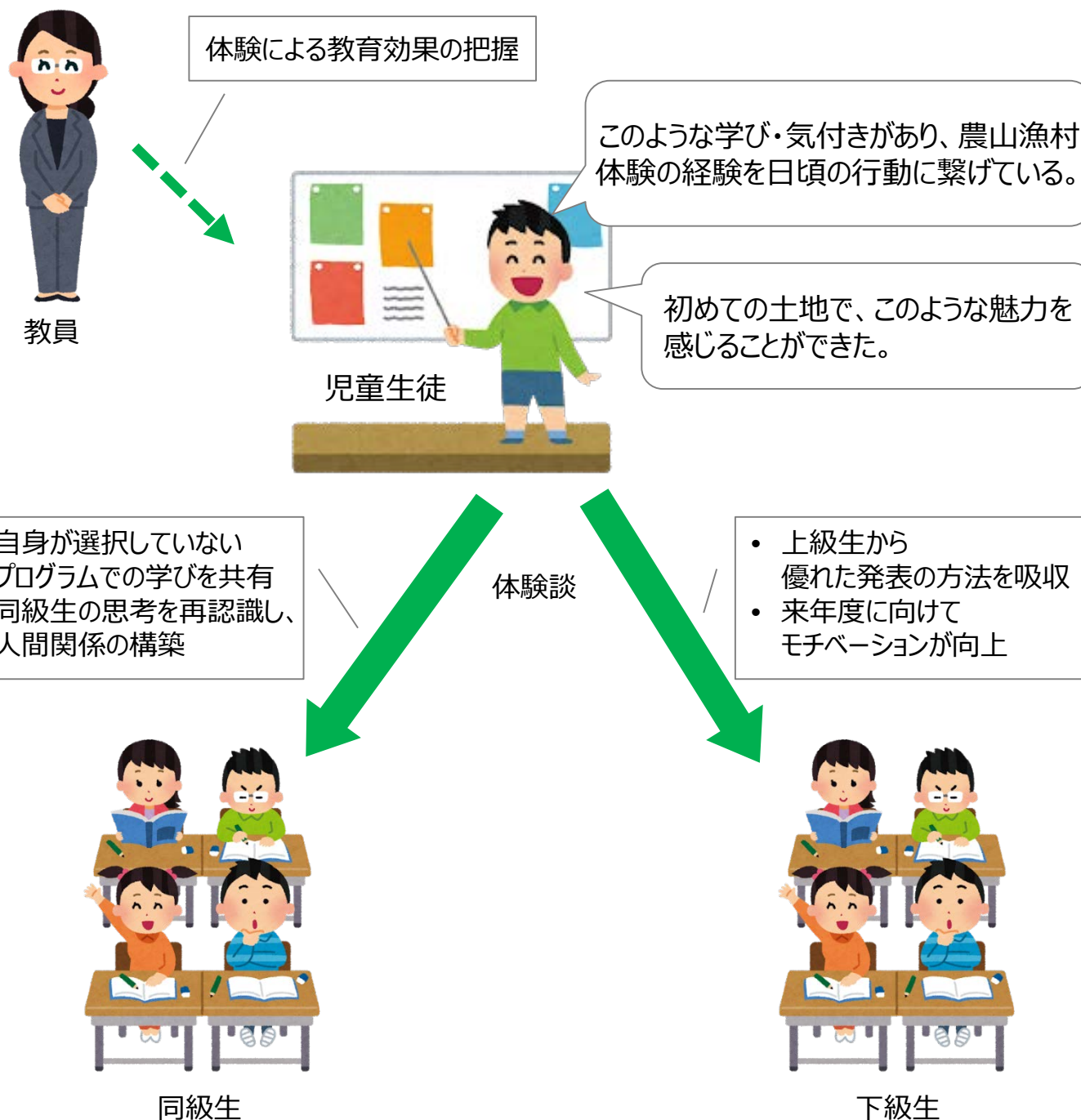
日程（予定）

※作業場所は各教室

- 10月15日（月）⑥：事後新聞作成 1 概要説明・作業開始
 16日（火）⑥：事後新聞作成 2
 ※以後、下書きができた農業班から本が気を始める。
 黒ペン、色えんぴつなど忘れないように。
 18日（木）⑥：事後新聞作成 3（前半）
 23日（火）⑥：事後新聞作成 4
 24日（水）⑥：事後新聞作成 5→完成・提出
 25日（木）…新聞しめきり。

農山漁村体験活動の実施後、活動を振り返る内容のプレゼンテーションを実施することで、活動で得た教育効果の定着や、意見を伝える力の向上が期待できます。また、発表の聞き手として、児童生徒が同級生の学びを共有することができます。

事後学習のプレゼンテーションの取組例



食育の効果をもたらす事後学習として、以下のような、児童生徒自身が収穫に携わった農作物を使った調理実習が考えられますが、活動中の取組との連続性が重要になります。

食育効果をもたらす事後学習（NPO法人「食の絆を育くむ会」）

活動中

主な活動	指導上の留意事項
1. 民泊の受入れ家庭先において、農業の実体験を行う	農業に従事する農家の姿を見ることによって、農家の一日のくらしを知り、農業のイメージが湧くようになってもらう

事後学習

主な活動	指導上の留意事項
1. 受入れ側の職員による講演	- 農家のビデオメッセージの放映や受入れ家庭の手紙を読むことで、児童生徒が活動中に体験したことを振り返り、自分の考えをまとめられるようにする - 農業の重要性や課題、農家の社会への貢献を伝える授業を行う
2. 調理実習	生徒が実際に収穫に携わった農作物を受入れ地域から配送し、その農作物を利用した調理実習を実施することで育てる・調理する・食べるという一連の食育実践を行い、食べ物の大切さが感じられるようにする

教育効果

- 農業の重要性を感じるようになり、食べ物を大切にする、食べ残しをしないという姿勢が身につく
- 食の安全性への意識が高まり、国産の農産物を進んで選ぶようになる

農業の重要性は、農業への明確なイメージがなければ実感出来ないため、活動中には、農業・農家のイメージがふくらんでいくよう農家の方と深いコミュニケーションをとる機会を用意し、事後学習の際に、児童生徒が活動を振り返って農業や農家に関する自分の考えを持つことが重要です。

ポイント② 体験活動の効果測定

測定方法としては、担当教員や児童生徒、受入れ側等へのアンケート調査が考えられます。
測定結果は、体験活動の教育効果を客観的に示して活動の協力者を増やすことに活用できます。

効果測定のアンケート項目の一例（千葉市教育委員会）

- ・ 児童と担任に以下の項目について5段階評定で回答してもらいます。
- ・ 活動前後で同じ項目に回答してもらい、結果の変化を活動の教育効果として把握します。

分類項目	調査項目
感性	体験活動等で、自然とふれ合うことは好きですか
	自然を大切に、環境美化活動にさんかすることは大事なことだと思いますか
	自分の役割や奉仕活動に取り組む中で、働くことの喜びを知り、楽しさを感じることはありますか
	今まで知らなかったことが、勉強してわかるようになってうれしいと感じたことはありますか
	千葉市や千葉県のよいところを話すことができますか
自己規制	必要なときに「ありがとう」「ごめんなさい」などの言葉を使うことができますか
	新しいことに積極的に取り組んだり、挑戦したりしていますか
	うまくいかないことがあっても、あきらめずに努力し続けようとしていますか
	目標に向かって友達と協力して取り組んでいますか
	自分たちで決めた約束やきまりは守るように心がけていますか
	友達と話し合うなどして、できるかぎり自分の力で問題を解決しようとしていますか
自己肯定	班、学級、委員会活動などでは、リーダーとして活躍していますか
	家族から「手伝いをよくしてくれる」とほめられることはありますか
	勉強でわからないことがあると、わかるまで先生や友達に教えてもらうなど、ねばり強く取り組もうとしていますか
社会	「やればできる」と、自信をもって取り組んでいますか
	清掃や係の仕事などを進んで行っていますか
	自分の考えを先生や年上の人にきちんと伝えることができますか
	相手が自分の考えと違う場合でも、意見をよく聞き理解しようとしていますか
生活習慣	学校へは楽しく登校していますか
	身の回りの整理せいとんなど、自分のことは自分でするように努めていますか
明朗	好き嫌いせず、何でも食べようと努力していますか
	先生や友達、地域の方にあいさつをしていますか
	学級の誰とでも仲良くしていますか
	グループで仲良く過ごすために、人に合わせたり、ゆずったりすることができますか
	友人関係で困っていたり悩んでいたりとる友達がいたら助けることができますか

出典）千葉市教育委員会「体験学習の手引」

国立青少年教育振興機構は、「生きる力」を「心理的社会的能力・徳育的能力・身体的能力」とし、アンケートによって測定・分析するツールを提供しています。

事前・事後・追跡（例一ヶ月後）調査として児童生徒に所定のアンケートに回答してもらい、その結果を測定・分析ソフトに入力することで、定量的な評価を行うことができます。

「生きる力」分析結果の例

1 名称 独立行政法人 国立青少年教育振興機構

(実施期間) 2010/03/08～2010/03/10 2日間
(参加者) 100名
(主な活動) 異校間、フリータイミング、生涯体験

2

調査時期	実施日	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
事前調査	03/08	100	100	100.0%	100	100.0%
事後調査	03/10	100	100	100.0%		
追跡調査	03/11	100	100	100.0%		

3 分析結果
分析対象数 (人)

性別	小学生			中学生			高校生以上	無回答	計
	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生			
男子	-	10	15	16	10	-	-	-	50
女子	-	10	15	16	10	-	-	-	50
計	-	20	30	30	20	-	-	-	100

(「生きる力」28項目の集計結果)

4

能力	調査項目	事前調査		事後調査		追跡調査	
		M	SD	M	SD	M	SD
生きる力		124.8	80.7	129.5	10.7	128.3	18.0
心理的社会的能力		62.5	10.3	64.2	10.4	63.5	10.4
心理的社会的能力	非暴力	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	積極性	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	人間性	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	交友・協調	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	解決力	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	視野・判断	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	責任行動	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	徳育的能力	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	自己規律	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
	自然への関心	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0
生活習慣	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0	
思いやり	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0	
身体的能力		25.2	5.9	27.4	5.9	27.2	4.9
目的行動力	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0	
身体的能力	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0	
身体活動性	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0	
体育技能・生活	11.0	3.0	11.0	3.0	11.0	3.0	

※各項目で「とてもあてはまる」を0点、「まああてはまる」を1点としてそれぞれ1点刻みで評価した。0点は最低点（0点満点）を意味する。

#	項目	内容
①②	事業の概要	事業の名称や実施期間 アンケートの回収率や有効回答率 等
③④	分析結果	分析対象数や各能力の集計結果 等

教育効果の検証結果

(教育効果の検証) 分析方法: 反復測定による一元配置分散分析 (分析結果の詳細は詳細出力を参照)

『生きる力』の変容 (得点範囲: 28~168点)



図1. 『生きる力』の平均値の推移

(事前-事後)
・事前から事後にかけて4.7ポイント向上
・その向上に有意差が見られた
(事後-追跡)
・事後から追跡にかけて1.2ポイント低下
・その低下に有意差は見られなかった
(事前-追跡)
・事前から追跡にかけて3.5ポイント向上
・その向上に有意差は見られなかった

『心理的社会的能力』の変容 (得点範囲: 14~84点)



図2. 『心理的社会的能力』の平均値の推移

(事前-事後)
・事前から事後にかけて1.7ポイント向上
・その向上に有意差が見られた
(事後-追跡)
・事後から追跡にかけて0.7ポイント低下
・その低下に有意差は見られなかった
(事前-追跡)
・事前から追跡にかけて1.0ポイント向上
・その向上に有意差は見られなかった

『徳育的能力』の変容 (得点範囲: 8~48点)



図3. 『徳育的能力』の平均値の推移

(事前-事後)
・事前から事後にかけて1.7ポイント向上
・その向上に有意差が見られた
(事後-追跡)
・事後から追跡にかけて0.2ポイント低下
・その低下に有意差は見られなかった
(事前-追跡)
・事前から追跡にかけて1.5ポイント向上
・その向上に有意差が見られた

『身体的能力』の変容 (得点範囲: 6~36点)

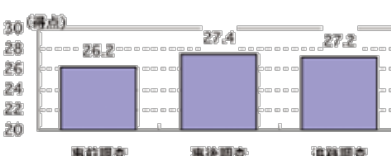


図4. 『身体的能力』の平均値の推移

(事前-事後)
・事前から事後にかけて1.2ポイント向上
・その向上に有意差が見られた
(事後-追跡)
・事後から追跡にかけて0.2ポイント低下
・その低下に有意差は見られなかった
(事前-追跡)
・事前から追跡にかけて1.0ポイント向上
・その向上に有意差は見られなかった

7 (担当者の所見)

沢登りやフリークライミングといった冒険的な活動に積極的に挑戦したことで自信を身に付け、同年代の仲間との長期的な集団生活を通して思いやる心や協調性がはぐくまれたことで、参加者の生きる力が向上したと考える。なお、1か月後の追跡調査でも、本事業の教育効果が持続していることがわかった。

#	項目	内容
⑤	平均点の棒グラフ	[生きる力・28項目の集計結果]に示した「生きる力」と「3つの力（心理的社会的能力・徳育的能力・身体的能力）」の各調査時期における平均点の棒グラフ
⑥	コメント	各調査時期の平均点の得点差とその差の統計的優位性に関するコメントが表示されます
⑦	担当者の所見	活動と分析結果に関する所見を入力することができます

出典) 国立青少年教育振興機構「事業評価に使える! 『生きる力』の測定・分析ツール」
http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/69/

⇒ p.149、150に、「生きる力」のアンケート用紙を掲載